

日本共産党は、ふるさと熊本が戦場になることに反対します

山本伸裕県議と党熊本市議団・地区委員会で、「指令部地下化」など、健軍自衛隊の基地強化中止を申し入れ

2月21日、日本共産党・山本伸裕県議と党熊本市議団、党熊本地区委員会で、東区健軍にある陸上自衛隊健軍駐屯地（西部方面隊司令部）に赴き、「敵基地攻撃保有のもとでの熊本の戦場化中止を」求める申し入れを行いました。



大軍拡のもと、「基地強化・日米共同訓練」の中止を！

基地強化策で、健軍駐屯地配備中の「12式地対艦誘導弾」を現在の射程200キロを1,000キロ超に延ばす「能力向上型」への置換準備が進んでいます。

一方、今年1月に防衛省は、陸上自衛隊と米軍第3海兵機動展開部隊との共同訓練を2月16日～3月12日まで九州・

沖縄での実施を発表しました。2005年以来、米国内で米海兵隊と陸上自衛隊で行ってきた離島防衛訓練の日本初の実施です。この訓練に、県下の高遊原分屯地も組込まれています。

大軍拡のもと、戦争へとつながる自衛隊の軍事力強化・日米共同訓練の中止も求めました。

熊本が戦場になることを想定した「自衛隊指令部地下化」

「敵基地攻撃能力」は、日本が攻撃を受けていなくても、米国の戦争を始め、日本がこれを存立危機事態と認定すれば、自衛隊が集団的自衛権の行使として他国領域に敵基地攻撃を行い、その結果、相手国から報復攻撃を受け、日本国民に被害が出る危険があるものです。結果的に、日本が全面戦争に巻き込まれ、日本の国土が焦土化

する危険なものです。

「敵基地攻撃能力」保有のもとで、陸上自衛隊健軍駐屯地（西部方面隊司令部）を地下化することは、熊本が敵のミサイル攻撃等を受けて戦場になることを想定してのものです。

「敵基地攻撃能力」保有と一体となった「指令部地下化」の先は戦争です。



【控室から】
最後の一般質問
なすまどか

2月27日、私にとって最後の一般質問を行います。「物価高騰から暮らしを守るのか」「保護者から要望の強い学校給食の無償化」「TSMC進出にともなう地下水の保全」「自衛隊健軍駐屯地の司令部の地下化問題」など、暮らし、福祉、教育、平和などをテーマに行います。

議員となり一番最初の一般質問は今でも鮮明に覚えています。文書を書くことが苦手な私にとって約2時間分の原稿を書き上げることは本当に大変で、約2か月かけて仕上げたことを覚えています。16年間、一般質問を準備するに当たり最も重視してきた点は、市民の方々の声です。政治のゆがみにより苦難に直面している市民の方々の声を市政に届け、少しでも政治が変わるよう努力してきました。思うような答弁が返ってこず、落ち込んだ時もありました。しかし、あきらめずに市民の方々と行動し、一般質問でとりあげ、国民健康保険の無保険状態の改善、障がい者へのガソリン券の給付、小中学校へのエアコンの設置など住民の声が市政に届いた時の喜びは今でも忘れられません。

最後の質問、一生懸命がんばります。時間は午前10時からです。ぜひ傍聴にお越しくてください。



上野みえこ
(中央区)



なすまどか
(東区)

日本共産党
熊本市議会だより

熊本市中央区手取本町1-1
発行：日本共産党熊本市議

NO. 1313
2023年2月26日号
電話 328-2656
FAX 359-5047



メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
HP：共産党 熊本市議団

検索

物価高騰で困窮する市民への支援を

生健会と「物価手当支給・保護基準引き上げ・冬季加算増」等を要望



2月16日、「熊本市生活と健康を守る会」のみなさんが、熊本市へ「物価高騰で困窮する市民に対し、物価手当支給及び国に生活保護基準引き上げや冬季加算の増額等を求める要望書」を提出し、懇談されました。日本共産党市議団も参加しました。

【要望項目】

- (1) 灯油・電気料金の高騰で生活困窮している高齢者・障がい者・ひとり親世帯・生活保護利用者・学生などに対して「物価手当」を支給すること
- (2) 熊本市の生活保護「冬季加算」の特別基準適用し、国に対して冬季加算の増額・夏季加算の新設を要請すること
- (3) 物価高騰に見合う生活保護基準引き上げを国に要請すること
- (4) 北・東福祉事務所の分室を龍田・託麻の総合出張所に設置すること

我慢に我慢を重ねる生活・・・参加者の生の声

- ・熊本の夏は暑くて、クーラーなしでは過ごせないが、生活保護ではとても買えないので、エアコンなしで生活してきた。
- ・電気代が上がって生活が苦しいので、食事の回数を2回に減らして生活している。病気の家族もいて大変。
- ・障害があるので、ほとんど家の中で生活しているが、電気代が高いため、エアコンはほとんどつけずに我慢している。
- ・お風呂は5日に1回しか入れない。エアコンはつけずストーブにしているが、灯油代が6,000円以上かかるので、食費が足りない。給湯器はぜいたく品だと言われて、保護では買えない。

ハイデルベルク市友好都市締結 30 周年記念、代表団来熊 ハイデルベルク市の「SDGs」に学ぶ

熊本市とハイデルベルク市（ドイツ）の友好都市 30 周年を記念して、市長や議会などからなる代表団が熊本市を訪れました。2月10日に市長と議会の表敬訪問・交流会、翌11日には「SDGs」をテーマにシンポジウムが開かれました。以下、ヴェルツナー市長の講演を紹介します。

【エネルギー政策】 再生可能エネルギーの利用促進

気候変動目標達成には、太陽光発電の増設スピードを6倍化する必要があるが、国の補助金が充分でなく、ハイデルベルク市は独自に、屋根・緑化屋根・

ファザードの太陽光発電システムに対し、約200万円（18,000€）上限の補助金を支給しています。その他、新築の際の太陽光発電設置も義務化。

公共交通・自転車の利用促進で、環境にやさしい移動

公共交通機関の無料化・土曜無料化などに取り組み、乗客は15～23%増、主要交通軸の自動車数が8%減少。

また、公共交通利用促進に、21歳以下の若者に「月3€チケット


（約500円）」、高齢者には年365€（約5万円）。市民の20%が車を持っていません。

交通手段の第1位が「自転車」、約40%の利用。自転車政策に年920万€（約12億円）。

良好な都市気候へ、緑地を整備

市の緑地率は70%、市有林3,329ha。年間100万€（約1.4億円）以上を植林に充当。

1,000本の果樹を無償で市民

に提供しています。 

ドイツで初めて「スパ&ヒーリングフォレスト」認定証を受けています。（*温泉と癒しの森）